

引き続きたまねぎのべと病に注意を！

1 発生状況

本年は2月上旬に複数のほ場で越年り病株（図1）の発生があり、防除情報を令和2年2月13日に発表。4月上旬の発生予察調査においても被害株が多かったため、再度、令和2年4月10日に、防除情報を発出した。

その後も感染拡大が多くの地域で確認されている。



2 生態と発生条件 図1 越年り病株

図2 2次感染株

- (1) 作物残さなどから、11～12月に苗床や定植後のほ場で感染する。
- (2) 感染した株は越年し、2～3月に病徴を示し、葉は萎縮、黄化し、つやがなく、ねじ曲がり、硬くなる（図1）。越年り病株は1,000株に数株の発生でも2次感染株の多発につながる。
- (3) 越年り病株が感染源となり、3～5月に温暖で降水量が多いと2次感染株（通常のべと病株）の発生が増え、急速にまん延する（図2）。
- (4) 気温6～19℃で胞子を形成する。最適気温は13～15℃。
- (5) 気温15℃前後、湿度90%以上で胞子が発芽する。
- (6) 胞子は通常100m、強風時はさらに広範囲に飛散する。

3 防除

- (1) 発生を認めたら発病株は抜き取り、集めてほ場外に持ち出し、処分する。
- (2) 発病株を抜き取った後、治療剤を散布する（収穫時期、使用回数注意）。

表 たまねぎ べと病の防除薬剤（例） 散布にあたっては農薬のラベルを確認すること。

薬剤名	系統(FRAC)	種類	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ジマンダイセン水和剤・ ペンコゼブ水和剤	ジチカ-バ-メ-ト(M3)	予防	400～ 600倍	収穫3日前まで	5回以内
ベトファイター顆粒水和剤	その他(27) CAA(40)	治療 治療	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールドMZ	ジチカ-バ-メ-ト(M3) フェニルアミド(4)	予防 治療	500～ 1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ザンプロDMフロアブル	CAA(40) QoSI(45)	治療 治療	1,500～ 2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライ70アブル	その他(27) QoI(11)	治療	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	クロロニトリル(M5) CAA(40)	予防 治療	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
メジャーフロアブル	QoI(11)	治療	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

注) ジマンダイセン水和剤及びペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZなどに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、5回以内。